

全国学力・学習状況調査の概要

平成28年度全国学力・学習状況調査は、平成27年度に引き続き、全小中学校を対象に実施されたものです。

藤井寺市教育委員会では、本調査について次のように考え、取り組んでおります。

本調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することです。調査結果については、あくまでも児童・生徒に対する評価の一側面を示すものであります。したがって、競争や順位づけを目的とするものではありません。児童・生徒の学力の実態や、生活習慣を含めた学習状況、またそれら相互の関連を分析し、教育課題を明確にした上で、教育のあり方及び教育施策の改善を図ってまいります。特に学校現場においては、児童・生徒への指導や学習活動の改善等に役立ててまいります。

結果の公表については、保護者・市民の皆様、学校教育及び家庭教育についての理解と協力を得ることが何よりも大切であると考え、本市・大阪府・全国を比較する形で、教科・〈A（主に知識）、B（主に活用）〉別の平均正答率、学力の背景にもなっている生活アンケート結果及び今回の調査を分析する中で見られる本市児童・生徒の好ましい傾向と今後の教育課題についてお示しさせていただきます。

なお、学力調査結果の学校別平均正答率の公表については、序列化や過度な競争につながるおそれがあるため、これまで同様に行わないものとします。

（１） 調査の実施概要

① 実施日 平成28年4月19日（火）

② 実施学年及び対象者数

対象	藤井寺市		大阪府		全 国	
	学校数	対象者数	学校数	対象者数	学校数	対象者数
小学校6年生	7校	540人	1,000校	74,481人	19,522校	1,034,957人
中学校3年生	3校	571人	469校	73,954人	9,906校	1,038,129人

③ 実施内容

【小学校】 国語A（知識） 国語B（活用）
算数A（知識） 算数B（活用）
質問紙調査（児童質問紙）

【中学校】 国語A（知識） 国語B（活用）
数学A（知識） 数学B（活用）
質問紙調査（生徒質問紙）

(2) 調査結果

小学校について

※百分率は全て正答率を表す

小 学 校（6年生）【教科・区分別平均正答率】				
教 科	国 語		算 数	
区 分	A	B	A	B
藤井寺市	70.2	54.8	78.4	45.0
大 阪 府	71.3	55.4	76.9	45.8
全 国	72.9	57.8	77.6	47.2

小 学 校（6年生）【大阪府との平均正答率の差】				
教 科	国 語		算 数	
区 分	A	B	A	B
平成27年度	0.6	-0.3	0.1	1.3
平成28年度	-1.1	-0.6	1.5	-0.8

国 語

- 主として知識の面では、「漢字の読み書き」（平均80.3％）で、基礎的な漢字についての定着率が高いです。
しかし、基礎的な「話す」「聞く」「書く」「読む」ことに関して、「目的に応じた記述を選択する問題」の正答率は平均的ですが、「文章の表現や叙述を問う問題」の正答率は平均よりやや低い傾向にあります。
- 主として活用面では、「目的に合わせて読む問題」「質問の意図を捉えて答える問題」の正答率は平均的です。
しかし、「目的や意図に応じて、自分の考えを書く問題」の正答率は平均より低く、無解答率も平均を上回っており、目的や意図に応じて的確に記述することに、課題が見られます。

算 数

- 主として知識の面では、「基礎的な計算」（平均82.3％）、「図形の性質の理解」（80.7％）で基礎的な事項について、定着率が高いです。
しかし、「単位量当たりの大きさの求め方を理解しているかを問う問題」（69.4％）で、基礎的な量と測定の知識理解に課題がみられました。
- 主として活用面では、「示された条件を基に同じきまりが成り立つかを調べる問題」（92.6％）で、正答率は平均てきです。
しかし、「数値の意味、式の意味、成立する理由の説明を問う問題」（22.7％）で、正答率が低く、与えられた情報や考えを基に根拠を明らかにし、論理的に考えたり、式や言葉を使って説明することに課題が見られました。

中学校について

※百分率は全て正答率を表す

中学校（３年生）【教科・区分別平均正答率】				
教科	国 語		数 学	
区 分	A	B	A	B
藤井寺市	70.9	57.0	54.8	37.6
大 阪 府	73.5	63.3	61.7	43.1
全 国	75.6	66.5	62.2	44.1

中学校（３年生）【大阪府との平均正答率の差】				
教科	国 語		数 学	
区 分	A	B	A	B
平成２７年度	-0.4	-1.9	-0.4	-0.4
平成２８年度	-2.6	-6.3	-6.9	-5.5

国 語

○ 主として知識の面では、「語句の意味理解」（平均７６．７％）「漢字の読み書き」（平均７５．７％）と、標準的な力はついています。特に「語句の意味理解」は昨年と比べて、約６．８％高くなっています。読む領域では、「文脈や登場人物の言動の意味を考え、適切な答えを選択する」（平均８３．３％）、話す領域では、「相手や場に応じた言葉遣いに気をつけて話す」（９０．０％）となっており基礎的な理解はできています。

書く領域では、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」（６６．９％）と要点をまとめて書くことに課題が見られます。

○ 主として活用の面では、書く領域で、「考えや要旨を、条件に沿ってまとめて書く」（３５．８％）、「根拠を明確にして自分の考えを書く」（４２．６％）と、昨年度より改善は見られますが、文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題が見られます。

数 学

○ 主として知識の面では、「文字式を含む基礎的な計算」（平均７２．３％）、「見取り図の角の大きさの関係」（８０．４％）や「面を平行に動かしてできる立体」では（７２．９％）と基本的な理解ができています。「関数に関する基礎的問題」（平均４２．７％）については昨年度よりポイントは上回っていますが、依然として課題となっています。

○ 主として活用の面では、「問題解決の方法を数学的に説明する」（１０．０％）、「図形の性質を理解し、決められた条件の下で説明する」（２８．５％）などと、問題解決の方法や手順を数学的な表現を用いて、論理的に説明することには大きな課題が見られました。